

ストーリー型教材開発における関連性向上チェックリストの試作

A checklist proposal for improving relevance in story-based courses

柴田 喜幸^{*1*2}, 鈴木 克明^{*1}
Yoshiyuki SHIBATA^{*1*2}, Katsuaki SUZUKI^{*1}

*1 熊本大学大学院

*1 Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

*2 産業医科大学

*2 University of Occupational and Environmental Health

<あらまし> eラーニングを含む学習教材に寄せられる期待の1つに教材の魅力が挙げられる。KellerのARCSモデルによれば、魅力の向上要素の1つに学習内容の「関連性」がある。しかしこの重要性は唱えられながらもその方法は設計・開発者個人の力量・センスに大きく委ねられてきた。この問題をふまえ、第一筆者がこれまで教育ビジネス事業および大学(院)において設計・開発した100余コースの開発工程と受講者評価を振り返り、「教材ストーリーの関連性向上のポイント」を整理した。さらにそれに基づいたチェックリストを作成した。体験的・帰納的なこのチェックリスト案を端緒とし、ストーリー型教材の魅力(特に関連性)向上の検討を行う。

<キーワード> 教材開発, 学習コンテンツ, インストラクショナルデザイン, 遠隔教育・学習,

1. 背景と目的

市場の拡大を予測する各種調査とは裏腹に、eラーニングによる大学やベンダーの撤退が相次いでいる。その大きな原因の1つに教材の魅力不足が挙げられる。調査によれば「今後のビジネス展開において最も重要と思われる事項」の第1位に「コンテンツの魅力の向上」が指摘されている⁽¹⁾。魅力に関する先行研究の1つにKellerの提唱したARCSモデルがあり第2著者らによりさらに研究が進んでいる⁽²⁾。Kellerは学習の魅力を高める要諦の1つに学習内容の「関連性」(Relevance)を指摘しており、学習者が学習内容に感じる「やりがい」に着目している。それを企図したストーリー型教材も多く、ヒット商品も散在するが、現実には企図通りの関連性を実現できていない教材も多い。Kellerらの重要性の指摘とは裏腹に、設計・開発の具体的な方法の報告は寡聞であり、担当者の力量・センスに依存しているのが多くの現状である。本研究はこの改善を目的とする。

2. 方法

第一著者は教育ビジネスおよび大学(院)において100余のストーリー型教材の設計・開発に携わってきた。殊に昨年からは、著者らは熊本大学大学院においてストーリー型カリキュラム⁽³⁾の教材の設計を行い、非構成的面談や自由記述式のアンケートなどを通じ受講学生の意見を収集、ストーリーと日常の業務内容との組み合わせによる評価の差異などを分析している。それらの実践をふまえ、ストーリー型教材の魅力づくり、特に学習者と教材内容の関連付けをいかに行えばよいかを経験的に抽出し、チェックリスト化した。

3. 結果

表1にストーリー型教材 関連性チェックリスト(案)を示す。没入感に関する項目を中心に35個の項目で構成している。項目の主な視点は、①受講者との「関係付け」をどのように行うか、②それをどう表現するか、③学習目標との照合はどうかの3点である。また①については、「リアリティを感じること」を重視し、受講者自身の事項でなくとも、熟知しているものまたは取引先等業務上関連の深いもの場合はそれに準ずるスコア(自身のケースの場合の採点から-1点)で採点するようにした。

表1 ストーリー型教材 関連性チェックリスト(案)

※5点満点(受講者が直接該当しなくとも、熟知または業務上関連の深い場合はスコアから-1で採点)

分類	設問	点数		
没入感	設定	状況設定	設定は受講者が属する産業・業種・職種か	
		設定は受講者が属する事業(所)規模か		
		設定は受講者が行っている業務か		
	登場人物	受講者の属する産業・業種・職種で特徴的な人物が登場するか		
		受講者の属する事業(所)規模で特徴的な人物が登場するか		
		受講者の行っている業務で特徴的な人物が登場するか		
	ストーリー展開	エピソード	受講者の属する産業・業種・職種で特徴的なエピソードか	
			受講者の属する事業(所)規模で特徴的なエピソードか	
			受講者の行っている業務で特徴的なエピソードか	
		慣例	受講者の属する産業・業種・職種に特徴的な慣例が描写されているか	
			受講者の属する事業(所)規模に特徴的な慣例が描写されているか	
			受講者の行っている業務に特徴的な慣例が描写されているか	
		表現	受講者の属する産業・業種・職種で特徴的な表現用いられているか	
			受講者の属する事業(所)規模で特徴的な表現が用いられているか	
			受講者の行っている業務で特徴的な表現が用いられているか	
		行動	受講者の属する産業・業種・職種で特徴的な行動・動作が描写されているか	
			受講者の属する事業(所)規模で特徴的な行動・動作が描写されているか	
			受講者の行っている業務で特徴的な行動・動作が描写されているか	
	心的状況	コンフリクト	受講者の属する産業・業種・職種に特徴的なコンフリクトが起きるか	
			受講者の属する事業(所)規模に特徴的なコンフリクトが起きるか	
			受講者の行っている業務に特徴的なコンフリクトが起きるか	
		リアリティ	その状況に詳しい人物から「あり得ない」と思われる内容になっていないか	
			門外漢がギリギリで「あるかもしれない」と思える専門事情を用いているか	
			受講者が特定の登場人物に初期から投影されるように描かれているか	
	構成	社会的規範では批難されるもの・ことに、同情的な描写がなされているか		
		状況や心理を説明的でない表現で描写しているか		
		最初の数行で、受講者が大まかな状況を把握できる出だしになっているか		
学習目標	ゴールとの関連	起承転結各々の始まりが、突飛なセリフや出来事で立ち上がっているか		
		受講者が投影する人物が問題解決や意思決定の主体者になっているか		
		受講者が投影する人物は学習ゴールに求められる能力を使うか		
その他	上記の能力の習得は、学習者の現実の業務遂行に利益をもたらすものか			
		実在の個人・団体の非難、個人情報公開、差別表現などに留意しているか		

4. 今後の展開

本チェックリスト(案)は未だたたき台であり、今後教材開発経験者へのヒアリングや文献調査などを行い、項目の網羅性を高めていく。その上で改訂版のチェックリストを使った既存教材の評価や新規教材の作成などを通じ、信頼性・妥当性・有用性の検証を順次進めていきたい。

参考資料:

- (1) 経済産業省商務情報政策局情報処理振興課編: eラーニング白書 2007/2008年版, 東京電機大学出版局(2007)
- (2) 鈴木克明: 「ケラーのARCSモデル」, 教材設計マニュアル, 北大路書房, 京都(2006)
- (3) 小山田誠, 柴田喜幸: eラーニング専門家養成大学院へのストーリー型カリキュラム導入, e-Learning Conference2008 A-2 (2008)